

令和4年度 推薦入学試験

小論文

(11時05分 ~ 12時05分)

(受験上の注意)

- 1 「始め」の合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。
- 2 受験票は、机の右上に置きなさい。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、問題用紙と原稿用紙に受験番号と氏名を記入しなさい。原稿用紙の左下の※のある枠には何も書いてはいけません。
- 4 印刷が不鮮明なときは、だまって手を挙げなさい。なお、課題に関連する内容や小論文作成上の質問には答えられません。
- 5 「やめ」の合図があったら、すぐに筆記用具を置いて、解答用紙を裏返しにしなさい。原稿用紙は問題用紙及び下書き用紙とあわせて回収します。
- 6 原則、途中退出はできません。体調不良等により退室しなければならない場合は、だまって手を挙げ、試験監督の指示に従ってください。
- 7 試験終了後は、試験監督の指示に従ってください。

宮崎県立農業大学校

令和4年度 推薦入学試験 小論文

| | | | |
|------|--|----|--|
| 受験番号 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|

「テーマ」

次の文章を読み、あなたは農業大学校の2年間でどのようなことに取り組みたいと考えていますか。「宮崎の農業」の特色を踏まえ、あなたの考えを将来の進路をあげながら800字以内で述べなさい。

農林水産省が3月に公表した2019年の農業総産出額は8兆8938億円。都道府県別の産出額では北海道が統計の残る1960年以来首位を守り、1兆2558億円だった。2位以下は鹿児島県、茨城県、千葉県、宮崎県、熊本県が順に並ぶ。

60年時点では新潟県など米どころが上位の常連だったが、需要低下もあり稼げる農業の内訳が一変。台風被害を防ぐため稲作から施設を使った畜産や園芸への転換を進めた宮崎県などの九州勢が躍り出た。

(中略)

宮崎県内では関係者が一丸となった競争力向上の取り組みが進む。県は1994年に「みやざきブランド確立戦略構想」を策定し「『作ったものを売る』から『売れるものを作る』」を目標に据えた。

「令和3年8月14日 日本経済新聞 抜粋」